

# 女と男いきいきネット

ひと ひと  
女と男いきいきネットワーク久喜・通信第28号 2018, 1, 30 発行

学  
習  
部  
研  
修  
部



十二月一日、女と男いきいきネットワーク久喜学習部では、昨年同様バスツアーを実施しました。午前中は、WithYouさいたまの施設見学と講義。お昼はタニタ食堂で健康食体験をし、午後は埼玉県立歴史と民族の博物館の見学と藍染ハンカチ作り体験という、とても中身の濃い学習会となりました。

## 講師紹介

WithYouさいたまの講師は、男女共同参画専門員の黒須さち子さん。二〇一一年四月からWithYouさいたまに勤務とのことですが、専業主婦の時期も長く、その頃新座市の公民館で「男女平等の視点から見た家族」を受講して、もやもやしてい

## 「女性と子どもからみる貧困問題」

講師 WithYouさいたま 男女共同参画専門員

黒須 さち子 さん

たものや居心地の悪さや寂しさが晴れたそうです。当時は元夫の両親とも同居していたものの、制度や慣習に苦しんでいたことに気づき、その後離婚しパートの保育士などの職員として働きました。一度離職すると正規の職員にならないということが大きな問題になっていきますが、黒須さん自身も「自分の問題も社会の問題だな」と実感でき、たくさんの人とこの問題を共有して社会を少しでも変えられればいいな、と思いつながら仕事をしているとのことでした。

## 子どもの貧困率

今回の講義テーマは『女性と子どもからみる貧困問題』でした。

厚生労働省二〇一六年の



「国民生活基礎調査」の結果では、経済的に厳しい家庭で育つ一七歳以下の子どもの割合を示す「子どもの貧困率」(一五年時点)は13.9%と、前回調査(一二年時点)より2.4ポイント低下し、十二年ぶりに改善したとのこと。この改善について、厚生労働省は

「景気が回復し、子育て世帯の収入が上向いたため」とみているそうです。が、黒須さんは「調査ではこうですが、実感としてはどうでしょう？ 若い人たちの収入が上向いたとは聞いていません」と問題提起します。また、毎日新聞の「七人に一人が貧困で、ひとり親家庭では五割を超えている。経済協力機構(OECD)が十四年にまとめた加盟国36か国平均は13.3%で、日本はまだそれを上回っており、OECDの中ではまだ貧困率は高い」という記事を紹介しました。

### 母子家庭の経済状況

ひとり親家庭の現状は、昭和六十三年時点と平成二十三年の二十五年間で、母子家庭は84.9万世帯から123万世帯に、父子家庭は17.3万世帯から22.3万世帯に増え、母子家庭は一・五倍、父子家庭は、一・三倍になりました。父子家庭の平均年収

は三六〇万円ですが、母子家庭は一八一万円で、厳しい経済

母子世帯の母の就労による年収の構成割合 (単位：%)

		100万円未満	100~200万円未満	200~300万円未満	300~400万円未満	400万円以上	平均年間就労収入
総数	100.0	28.6	35.4	20.5	8.7	6.8	181万円
死別	7.8	33.6	30.9	17.3	7.3	10.9	256万円
生別	92.2	28.1	35.8	20.8	8.8	6.5	175万円
離婚	81.3	26.1	37.2	21.2	9.1	6.3	176万円
未婚	7.8	45.0	27.0	15.3	4.5	8.1	160万円
その他	3.1	38.6	20.5	22.7	11.4	6.8	164万円

状況に置かれていることがわかります。(上図)

低収入の背景として、母子家庭の8割が働いているものの、正規の職員は4割に満たなく、パート・アルバイトが47.4%、派遣を含むと62.1%という非正規の雇用形態があります。働き方も、時給が良い深夜だったり、ダブルワークだったりして、厳しい労働環境に置かれているのも現状です。そのため、子どもを夜預けることもできず、家に置いて働かざるをえない方もたくさんいます。そんな母親たちに、「子どもを一人にさせて」という批判的な見方をするのはなく、「なぜそのような働き方をしなければならぬか」を社会の問題として見ていき考えていく必要がある、と黒須さんは訴えます。

### 子育ての社会化

その一つとして、ひとり親家庭の母親が安心して子育てできる環境づくり。保育園の整備が急がれます。ドキュメンタリーで、深夜の子どもの

保育園の様子などを見ると、色いろな感想を持つものの、子どもへの安心・安全を保障し子育てを社会化していく必要があるとのことです。まだまだ保育や介護の仕事は、家庭で女性が見るような意識があるけれども、それは必ずしも親や子でなければならぬわけではなく、社会保障として考えていく視点が大切だと言えます。

そして、そのためにも保育や介護の仕事をする人たちの労働条件の改善・環境整備が、大きな課題だと指摘します。ケア労働は一般に比べまだまだ給与が低く、働き手も減っています。今後国会でも議論が進み社会保障が充実していくことが、「子どもの貧困」|| 「女性の貧困」を解決していくことにもつながっていくことでしょう。

### 地域のつながり || 子ども食堂

また、より高い収入を得るための就労支援も大事ですし、

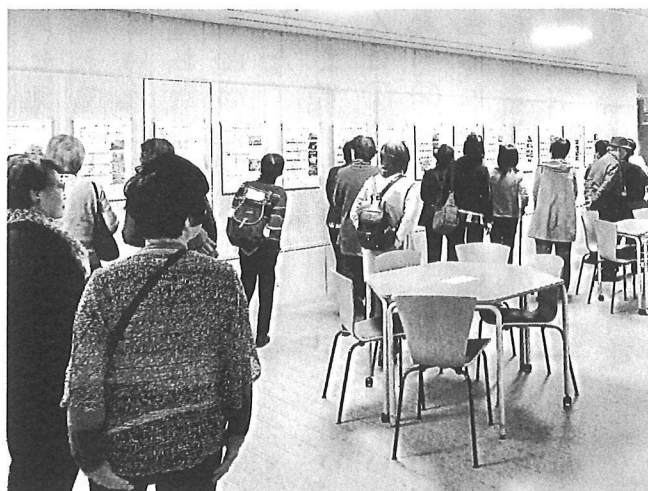
子どもの学習支援・食の支援（フードバンク）、情報提供等、さまざまな支援が必要となります。その一つとして、朝日新聞の報道ですが、孤食とか調理をしてもらえないなどの理由で食事のできない子どもへの取り組み——『子ども食堂』が全国で広がっているとのことです。

埼玉でも七十を超えるよ

うになり、十二月から始まる With You さいたまと東京家政大学との共同で開催される後期講座『地域へのまなざし』の中でも、子ども食堂を取り上げています。この講座は、さまざまな課題を抱えている女性と子どもが、地域とどうつながっているのか？ 地域で排除されることがないように、みんなで支え合える「地域コミュニティの作り方」も学びます。他にも「シングルマザーの現状と対策」「広域避難者支援の取組」と題した講座がありますが、地域の問題を深刻化させず、当

事者を孤立させないためには、「地域がその問題をどう受け止めるのか」「当事者が地域とつながっているのか」がポイントだそうです。

なお、With You さいたま四階交流コーナーでは『地域へのまなざし講座関連展示』も行っており、私たちは講座後、その展示も見ることができました。



私にできること

さて、平成二十八年、厚生

労働省は『ひとり親家庭・多  
子世帯等自立応援プロジェクト』をまとめ、様々な施策を打ち出しました。例えば、\*

自治体窓口のワンストップ化の推進、\*子どもの居場所づくり、\*児童扶養手当の機能の充実、\*保育所等利用の負担軽減、\*子どもの学習支援の充実、\*親の就労支援・資格の取得促進、\*非正規雇用労働者の育児休業取得促進、\*住居確保の支援 等々です。

しかし、私には下図の今回の講座資料「彼女たちを笑顔にするために」が、いつまでも心に残っています。私の周りを見渡した時、まず職場にはシングルで頑張っている若いママが何人もいます。また、ご近所・知り合いにもたくさんいます。友人の中には、加須で子ども食堂をやっている人もいます。

私にできることは何なのか？——話を聞いてあげる、情報を提供する、一緒に行政

窓口等に行ってあげる：等、できることから始めてみよう！と思える講座になりました。

### 彼女たちを笑顔にするために あなたなら何ができますか？



\*\*\*

昼食後は、大宮の埼玉県立歴史と民族の博物館の展示を



見学し、藍染ハンカチ作りの体験もしました。皆それぞれのハンカチが仕上がりました。(S・K)

## 委託事業「女と男の共生セミナー」

## オリーブの会

### 「心の健康・よろず相談」ほげないための日常生活十二か条

久喜市では、毎年委託事業として『女と男の共生セミナー』を行っていますが、今年①「パパママ一緒！子ども広場」（特定非営利活動法人子育てステーションたんぼぼ）、②「心の健康よろず相談・ほげないための日常生活十二か条」（オリーブの会）、③「（遊ぶ）は子ども時代の基本くこどもはあそぶ。おとなもあそぶ。」（久喜おやこげきじょう）の三事業が選ばれました。今回は、②のオリーブの会の講演会を報告します。

\*\*\*\*\*

十二月二日（土）久喜市立中央公民館視聴覚室で行われた講演会は、ほぼ満席で、演題への関心が伺われました。

講師の檜垣貴津子さんは、越谷で「さわやかこころ相談室」を開設している心理カウ



ンセラードで認知症ケア指導管理士でもあります。笑顔いっぱい元気いっぱいの檜垣さんのお話はユーモアにあふれ、場内は笑い声が絶えませんでした。

まず、認知症になりやすい人は①家に閉じこもりやすい人、②体を動かさない人、③生活に変化がない人、④取り立ててすることがない人、⑤曜日や時間を意識していない人、⑥糖尿病の人、⑦会話が少ない人、⑧高血圧・資質異常症等の生活習慣病の人、だそうです。

そこで、認知症を予防する次の十二か条を提唱されました。

- ① おしやべりの輪を広げよう
- ② 料理のレパートリーを増やそう
- ③ バランスよく栄養をとろう
- ④ 運動を習慣化しよう
- ⑤ ダンスを踊ろう
- ⑥ 頭の体操をしよう
- ⑦ 手先を使って創作しよう
- ⑧ 園芸で五感を刺激しよう
- ⑨ 旅行に出かけよう
- ⑩ 車の運転を楽しもう
- ⑪ アロマで生活リズムを整えよう
- ⑫ 新しいことにチャレンジしよう



また、認知症は早期発見が大切で、近くににいる人が早くに気づくと今は進行を遅らす薬もあるそうです。ただ、老化による物忘れと認知症によるもの忘れは違うそうで、「体験のすべてを忘れる」「ヒントがあっても思い出せない」「もの忘れを自覚していない」「日常生活に支障がある」のが認知症とのことでした。

バランスの良い食事も大切で、『まごたちはやさしい』食品Ⅱ **豆**類 **こ**こま **た**卵 **ち**

乳製品 **は**(わ)わかめ類 **や**野菜 **さ**魚 **し**しいたけ等キノコ類 **い**いも類 **を**摂るのがいいそうです。

後半は、「365歩のマーチ体操」「脳トレ」「クイズ」「ボケない音頭（お座敷小唄の替え歌）」等、体と頭を使ったワークシヨップを楽しみました。皆さんも、ぜひ取り組んでみてください。

#### 【編集後記】

●今年には雪がたくさん降り、寒い中で一人暮らす高齢者を心配するものの、そんな私もすでに高齢者。年金暮らし、老老介護の友人の話を知ったに、この国はどこに向かっているのか？子や孫の未来はどうなるのか？心配になりました。地震に噴火に気象異常…、自然の怒りも気になります。今年も一緒に、元気に歩いていきましょう。

#### 【発行】

女と男いきいきネットワーク久喜 代表 倉持睦子(22)4545 (進藤)

